

ふるさと意識の実態を探る(1)

——稲毛町の場合——

What the people in Inage think about home town

川合 元彦

Motohiko KAWAI

1 はじめに

最近になって、「ふるさと運動」とも呼ばれるふるさと村づくりの動きが、地方自治体やその他の団体などでさまざまな形態をとって活発に進められ、テレビや新聞などでもしばしば報道されている。

その代表的なものに全国大部分の道府県内のいくつかの市町村で実施されている特別町村民制度^(#1)がある。また、都市農村交流モデル市町村も、全国的に具体化が進められている。

なかには、特別町村民制度を実施し、ミニ共和国をつくり複合的に村づくりを行っている長野県小谷村のような例もある。

こうした企画は、経済の高度成長期に生み出された過密・過疎にかかわる諸問題、ことに過疎化した農山村が、地域の活性化を図る方策を求めたとき、公害になやみ、人間疎害を生じている都市地域に目を向けて交流を図ろうとしたことから始まったといえよう。

しかし、ふるさと村づくりの現状は、特別町村民制度の場合でも現状ではやや停滞してきている。それとともに村づくりの考え方が企業的側面を表に強く現わしているところも出はじめている。

ふるさとをどう考えたらよいのか。ふるさと意識を都市住民は、はっきりともっているのだろうか。また、成人がふるさとと聞いたとき、何歳ごろのどのような生活を思い浮かべるのだろうか。こうしたことを改めて考えてみる必要があるのではないだろうか。

地域に根ざす教育が薄れ、地域に根ざす生活も不十分な実態が現われてきているだけに、このふるさと意識の実態を把握するために、調査を行なってみた。

2 「ふるさと」とは

現在、「ふるさと」というとき、この言葉は、「その人が生まれ（育つ）た土地」の意味で、通常それは“田舎”（“地方”）とか、“同族の父母兄妹が待っていてくれる所”とかいう反都会的なイメージを伴っている^(#2)。

しかし、古語としての「ふるさと」は、現代語としての「ふるさと」以上にさまざまな意味をもっている。古語辞典をみると、

- ① 古びて荒れた里。昔、都などのあった土地
- ② 昔なじみの、なつかしい里。

イ 生れて育った家

ロ かつて住んだ所。長年暮した家。度々来た土地。

ハ （旅などに出て）後に残したきた我が家。留守宅。

があげてあり^(#3)、さらに別の辞典には②に関連して、「かつて通った女の家」もあげてい

る^(注4)。

このようにさまざまな意味をもっていた「ふるさと」という言葉が、現在使われているように「その人が生まれ(育つ)た土地」、いわゆる生まれ故郷の意味に限定されたのはいつ頃なのかは、はっきりとしていない。

この点について、武原弘氏は、「おそらくは近代以前のそれほど古い時代にさかのぼるものではないだろう。」と述べている^(注5)。

ここでは、現代語としての「ふるさと」という限定のもとに、この言葉を用いて、以下述べていくことにする。

3 調査対象地域と調査対象

今回の調査対象地域は、千葉市内の稲毛海浜ニュータウンをとりあげ、試みに行くことから小学校・中学校各1校を選んで、小学校は真砂第5小学校の6学年の2学級の児童と保護者、中学校は高洲第1中学校の2学年の2学級の生徒と保護者を対象とした。

調査方法は、質問紙法により、児童・生徒に対しては学級担任に依頼して教室で実施し、保護者に対しては、児童・生徒を通して配布し回収した。

実施は昭和61年7月初旬、回収率は児童(119人)・生徒(84人)については100%、保護者については、小学校の場合は82.4%(98人)、中学校は73.8%(62人)であった。

なお、今回の調査では保護者について、性別を本来配慮すべきであるが、家庭の事情にゆだねることにした結果、小学校は81%、中学校は76%が女性となっている。児童は53%が男子、生徒は50%が男子である。

保護者の年齢構成は次の表に示した通りである。

	小学校	中学校
3. 31~35才	12.4%	4.8%
4. 36~40才	59.8	38.7
5. 41~45才	22.7	51.7
6. 46~50才	3.1	4.8
7. 51~50才	2.0	—
計	100.0	100.0

4 ふるさと意識についての調査結果

(1) 成人に対する調査

○ふるさとの有無

(問1) あなたには、ふるさと(郷里)といえるところがありますか。

- 1. あるといえる。…………… 65.6%
- 2. まああるといえる。…………… 17.5

3. あるとはいいがたいし、はっきりしない。……………	9.4
4. ふるさとといえるところはない。……………	6.9
5. そ の 他……………	0.6
計	100.0

ふるさと意識の有無にかかわるこの問いで、「1. あるといえる」、「2. まああるといえる」と答えた人は、全体の約83%となっている。

また、「4. ふるさとといえるところはない。」と答えた人は約7%であった。

また、次の(問2)で、調査対象者のふるさとといえるところを都道府県名で記述を求めたが、小・中学校の両方の合計でみると、東京都が16.3%で、次が千葉県の13.8%と多い。以下北海道・新潟県(6.3%)、福島県(5%)、神奈川県(4.4%)秋田県・福岡県(3.1%)などの順で、その他の人々をあわせるとこの地域の人々のふるさととは、四国4県を除いてほぼ全国的に広がっている。

○ふるさとのなつかしさ

(問3) あなたはふるさとをなつかしいと思いますか。

1. たいへんなつかしいと思う。……………	44.4%
2. まあまあなつかしく思う。……………	42.5
3. あまりなつかしいとは思わない。……………	8.8
4. なつかしさは全くない。……………	0.6
5. そ の 他……………	0.0
NA ……………	3.7
計	100.0

全体の約87%の人々がふるさとを「なつかしく思っている」と答えている。

(問4) あなたがふるさとを思い出すのは、どんなときですか。

1. うれしいことがあったとき。……………	5.2%
2. ふるさとのことばを聞いたとき。……………	16.0
3. 悲しいことがあったり、さびしくなったとき。……………	10.0
4. ふるさとの友人や知人とあって、話しているとき。……………	23.4
5. ふるさとのことがテレビや新聞などで報道されたのを見たとき。…	36.3
6. そ の 他……………	6.5
NA ……………	2.6
計	100.0

最も多い答は「5. ふるさとのことがテレビや新聞などで報道されたのを見たとき」(36.3%)であり、次が「4. ふるさとの友人や知人とあって話しているとき」(23.4%)、「2. ふるさとのことばを聞いたとき」(16.0%)が比較的高い比率を示した。

「その他」の答えのなかに、「いつも思っている」、「ゆったりした気分になりたいとき」と書かれたものがあった。

○ふるさと意識の形成にかかわる時期とその形成要因

(問5) ふるさとと聞くと、あなたがいちばんなつかしく思いうかべるふるさとの生活は、何才ごろのことでしょうか。

1. 6才まで (小学校入学前のころ)	6.6%
2. 6～12才 (小学生のころ)	41.6
3. 12～15才 (中学生のころ)	27.1
4. 15～18才 (高校生のころ)	18.1
5. そ の 他	4.2
NA	2.4
計	100.0

(問6) 上記の(問5)で○をつけた年齢のころのふるさとの生活で、なつかしく思い出されることは、どんなことですか。次のうちから3つまで選んで下さい。

1. 思い出のある自然 (海・山・川・林・野原など)	43.1%
2. よく遊んだ場所 (公園・広場・あき地・社寺の境内など)	30.0
3. 水田・畑・牧場などの風景	7.5
4. 自分が育った家と近所の人々	42.5
5. 友だちと遊んだこと	34.4
6. 家族のだんらん	12.5
7. 祭りや縁日, 行事など	32.5
8. 小学校の級友や先生との生活	35.0
9. 豊かな人情を感じたこと	4.4
10. たべもの	8.1
11. 先祖の墓へおまいりしたこと	5.0
12. ふるさとのならわし・習慣	8.1
13. そ の 他	0.6
NA	8.1
総数	(405)

一般的にふるさと意識は何才ごろの生活と関連をもって形成されるものだろうか。このことは個人差があることは当然であるが、たとえば、井上靖の作品「しろばんば」を読んでも、少年のころの湯が島での生活が心に強く印象づけられているのではないかと考えられる。

ふるさと意識の形成に深くかかわる時期とその頃の生活をとらえようとした問いかけが(問5)と(図6)である。

この(問5)では、「2. 6～12才(小学生のころ)」が41.6%と最も高く、次いで「3. 12～15才(中学生のころ)」(27.1%), 「4. 15～18才(高校生のころ)」(18.1%)の順となり、小学生のころから高校生のころまでの生活が、全体の86.8%に及んでいる。

このことは、また後で述べる現在の児童・生徒の生活についての問いとかかわりあいをもつてくる。

ところで、この年齢のころのふるさとの生活で、心に残っていること、つまりふるさと意識の形成の要因と深くかかわるものは何であろうか。このことを探ろうとした問いが（問6）である。

最初に、ふるさとを現代語としての「ふるさと」としてきてきていることから、調査対象者のふるさとが、大都市か農山漁村かなど、その環境によってこの調査結果は影響される。

まとめた結果からみると、「1. 思い出のある自然」が43.1%で最も高く、次いで、「4. 自分が育った家と近所の人々」(42.5%)、「5. 友だちと遊んだこと」(34.4%)、「7. 祭りや縁日、行事など」(32.5%)、「2. よく遊んだ場所」(30.0%)などの順序となっている。

このことから、自然環境とのかかわりあいや近所の人々との付き合い、友だちとの遊び、祭り・縁日・行事などが、ふるさと意識形成に重要な役割を果していると考えられる。なかでも、「友だちと遊んだこと」と「よく遊んだ場所」とをあわせると、64.4%となり、友だちとの遊びがふるさと意識の形成の要因として注目すべきではないかと考えられる。

○現住地についての愛着とその理由

（問9）あなたは、現在住んでいるところに愛着を感じていますか。

1. つよく感じている。……………	10.6%
2. まあ感じている。……………	66.9
3. あまり感じていない。……………	17.5
4. すぐにでも引越したい……………	3.1
5. その他……………	0.6
NA ……………	1.3
計	100.0

この地域の居住者は、すべて他地域からの転住者であり、調査対象者の居住年数は、次の表のように長くても15年未満となっている。

この（問9）に対しては、最も高い「2. まあ感じている」(66.9%)と次の「1. つよく感じている」(10.6%)とをあわせると、77.5%の人々が愛着を感じていると答えている。

では、愛着を感じていると答えた人々は、居住地のどのような点に好感をもっているのだろうか。

・調査対象者の居住年数

居住年数	人数
1年未満	4人
1～3年	6
3～5年	12
5～10年	33
10～15年	103
NA	2
計	160

(注) (問8)より

(問10) 上の(問9)で現在住んでいるところに「愛着を感じている」(1・2に○をつけた方)は、その理由に近いものを3つまで選んで下さい。

1. よい自然環境があるから	35.0%
2. 長年住み慣れているから	23.8
3. 近所同士、気心がしれているから	21.9
4. すぐれた郷土文化やお祭りがあるから	1.3
5. 風紀や治安がよいから	5.6
6. 交通が便利だから	25.6
7. 買い物などが便利だから	48.1
8. 住民の連帯感が強いから	0
9. 気楽に生活ができるから	28.8
10. よい文化施設があるから	9.4
11. 商売をするのによいところだから	0
12. 住民の教育水準が高いから	1.3
13. その他	1.9
NA	13.8
総数	(346)

旧海岸線から沖へ広がる砂浜海岸に造成した平坦な埋立地。そこにつくりあげられたニュータウンには、東京湾に面して人工海浜をもつ大規模な緑の海浜公園があり、各地区に小公園もつくられている。巾広い道路には並木も繁っている。

背後の台地には、旧海岸線を走る国道14号線に面して歴史の古い稲毛浅間神社があり、その周辺にはみごとな松林がある。

国鉄総武線、稲毛駅との間にはバスの便があり、本年6月には京葉線が開通し、新稲毛駅も開業している。

また、各地区ごとにショッピングセンターがあり、地区ごとにコミュニティセンターもつくられ、小・中・高校も数多く配置されている。

(問10)で最も多い答が、「7. 買い物などが便利だから」(48.1%)、次いで、「1. よい自然環境があるから」(35.0%)、「9. 気楽に生活ができるから」(28.8%)、「6. 交通が便利だから」(25.6%)、「2. 長年住み慣れているから」(23.8%)、「3. 近所同士、気心がしれているから」(21.9%)の順となっている。

これらの回答から、この地域は、まず住み心地のよい恵まれた環境が作り出され、居住地に愛着をもつ理由がよく理解できる。

ところでこの地域の人々は、毎年7月15日に行われる稲毛浅間神社の祭りや地区のさまざまな行事に出かけているのだろうか。

先の(問6)で、ふるさと意識形成の要因を調べてみたなかで、祭りや縁日、行事などは比較的高い率を占めていた。

○地域の祭りや行事への参加

(問11) あなたは稲毛浅間神社のお祭りに行ったことがありますか。

1. は い	86.9%
2. い い え	11.3
NA	1.8
計	100.0

(問12) あなたは、町内会・自治会・商店会・子ども会などのお祭りや盆踊り、バザーのような行事に行ったことがありますか。

1. は い	91.3%
2. い い え	7.5
NA	1.2
計	100.0

(問13) 上の (問12) で「いいえ」と答えた方におききします。
行事に行ったことがないのはなぜですか。

1. そういう行事がないから	15.4%
2. 行事はあっても行く気がしないから	38.5
3. 仕事や勤めの関係で行く時間的なゆとりがないから	23.1
4. その他	15.4
NA	7.6
計	100.0

この地域に新しく移り住むようになった人たちの稲毛浅間神社の祭りへの関心は高く、約87%の人たちが出かけている。

居住地区のさまざまな行事は、地区住民の親睦を深めあい、子どもたちの生活の変化、充実に役立つものが実施されている。この行事に対する参加は90%をこえる参加率となっている。

○子どものふるさととしての現住地

親の「生まれ(育つ)た」ふるさとは、この調査対象者の場合は別の地域である。この地域は人により第2、第3のふるさととなりうるところといえよう。

また、子どもの場合でみると、将来自らのふるさとを思い浮かべたとき、おそらく現住地が脳裏に描き出されるのではないだろうか。

先の(問5)で述べたことがここでは関係してくる。

これまでの問いを通じて、住民のふるさと意識をいくつかの角度からみてきたが、この地域は、子どもたちにとって心に残るよきふるさととなりうるのだろうか。

(問14) 現在住んでいるところが、あなたのお子さんの心にふるさとして残るとしたら、あなたはどのように思いますか。

1. とてもよい地域なので、ぜひ心に残してほしい。……………	18.8%
2. まあまあよい地域なので、ふるさとも思ってもよい。……………	46.3
3. ふるさとして意識するのは当然なのでなむをえない。……………	14.4
4. あまりよい地域とは思わないが、少しでも地域をよくするようにしたい。……………	12.5
5. ふるさとして、心に残してほしくない。……………	0.6
6. その他……………	5.0
NA ……………	2.4
計	100.0

この結果からみると「2. まあまあよい地域なので、ふるさとも思ってもよい。」(46.3%)と、これに次ぐ「1. とてもよい地域なので、ぜひ心に残してほしい」(18.8%)とをあわせると、65.1%の人たちが、この地域は子どもたちにとってのふるさととなりうると積極的に考えている。

ことに、「4. あまりよい地域とは思わないが、少しでも地域をよくするようになりたい」と地域の問題となることがらをみつめて、建設的に地域の課題に取り組む意欲を示された人が12.5%を占めていた。

この地域が、親としては第2あるいは第3のふるさととなり、子どもにとっても心に残るよいふるさととするためには、どのような地域にしていくことが望まれるのだろうか。

○ふるさとづくりへの課題

(問15) 現在住んでいる地域を、子どもたちにとってよい生活環境とするのには、どんなことが必要でしょうか。3つまで選んで下さい。

1. 身近なよい自然環境を守る。……………	67.5%
2. 遊びの広場や公園、グラウンドなどをととのえる。……………	21.9
3. 図書館・児童館などの文化施設をととのえる。……………	14.4
4. 地域の子どものスポーツをさかんにする。……………	6.3
5. 身近な地域の地理や歴史・伝統などを子どもによく理解させる。…	18.8
6. 季節の行事・昔から伝わる行事などをさかんにする。……………	21.9
7. 地域の子どもの会の活動をさかんにする。……………	13.8
8. 地域の風紀や治安をよくする。……………	41.9
9. 住民同士の人間関係をよくする。……………	33.8
10. 騒音などの公害をなくす。……………	23.8
11. その他……………	0.6
NA ……………	1.3
総数	(425)

この回答で最も多かったのは、「1. 身近なよい自然環境を守る」(67.5%)で、次いで「8. 地域の風紀や治安をよくする。」(41.9%), 「9. 住民同士の人間関係をよくする。」(33.8%), 「10. 騒音などの公害をなくす。」(23.8%), 「遊びの広場や公園, グランドなどをととのえる。」(21.9%), 「季節の行事・昔から伝わる行事などをさかんにする。」(21.9%) などとなっている。

(2) 子どもたちに対する調査

子どもたちは、現在生活している地域に対して、どのような考えをもっているのだろうか。

○居住地に対する愛着度とその理由

(問1) あなたは今住んでいるところが好きですか。

1. とても好き	27.8%
2. どちらかというとき好き	32.8
3. 好きでもきらいでもない	33.8
4. どちらかというとききらい	3.9
5. 大きらい	1.7
計	100.0

「3. 好きでもきらいでもない」(33.8%)が第1位で、「2. どちらかというとき好き」(32.8%), 「1. とても好き」(27.8%)の順となったが、この2.と1.をあわせると60.6%の子どもたちは地域に愛着をもっているといえよう。

しかし、「4. どちらかというとききらい」(3.9%), 「5. 大きらい」(1.7%)と答えた子どもたちが合計5.6%いることは注目される。「大きらい」と答えた子どもはすべて中学生である。

では、子どもたちがこのように答えたのはどのような理由からかについて、次の問いでまとめてみよう。

(問2) 上の(問1)で答えたことの原因を次の中から選んで、3つまで○をつけてください。

2. よい友だちがいる	60.1%
5. 住みなれている	41.4
10. 買いものが便利	40.4
4. 今の学校が好き	28.6
3. 交通が便利	26.6
13. 夜、音がうるさい	18.2
8. 遊び場が多い	14.8
9. 近所の人がいい人たち	14.3
1. 静か、緑が多いなどかんきょうがよい	9.4
6. ちかんやへんな人たちがいる	6.9
12. 夜、人通りが少なくてこわい	3.0

11. 家は親が苦勞して買った……………	1.5
14. その他……………	13.3
NA ……………	0.5
総数	(570)

子どもたちにとって居住地域に親しみをもつかどうかは、「よい友だちがいる」かいないかと深くかかわっている。このことは成人の場合の（問6）のふるさとの生活で思い出されることについての答のまとめと共通するものがある。

他方、稲毛海浜ニュータウンは海上の埋立地であり、土地造成が早期に行われた地区^(註)でも15年、最初の入居^(註)以来13年とまだ年数が短く、緑はかなりみられるとしても、土壌が樹木の成育に十分な厚さとはいえないためか、その樹木の規模はまだ小さい。また、京葉線の開通は意外な騒音をまきちらしている。

（注 46年11月埋立事業第1工区竣工認可

（注 48年3月住宅・都市整備公団高洲第1団地入居開始

こうしたことが、「14. その他」の中で、緑が少ない、「京葉線がうるさい」とあり、これらの答えと「1. 静か、緑が多いなどかんきょうがよい」とする答えの少いこととは関連すると考えられる。

〈中略〉

この地域の子どもたちは、日常どこで遊んでいるのだろうか。このことについて調べてみた。

○子どもたちの遊び場所

（問4）あなたは、いつもどこで遊んでいますか。次の中から、よく遊ぶ場所の1位と2位を選んで下の（ ）に番号で書いてください。

この答えを1位、2位にわけて答えをまとめてみると次のようになった。

〔1 位〕		〔2 位〕	
	%		%
1. 自分の家……………	32.0	2. 友だちの家……………	29.6
3. 家の近くの公園……………	25.6	1. 自分の家……………	18.2
2. 友だちの家……………	13.3	3. 家の近くの公園……………	12.3
4. 家の近くのあき地……………	3.9	5. 家の近くの道路……………	7.4
5. 家の近くの道路……………	2.5	7. 学校の校庭……………	7.4
7. 学校の校庭……………	1.5	6. 海 辺……………	5.4
6. 海 辺……………	0.5	4. 家の近くの空地……………	3.9
8. その他……………	18.7	8. その他……………	14.8
NA ……………	2.0	NA ……………	1.0
計	100.0	計	100.0

全体としてみると自分の家かその付近の公園・あき地・道路か、友だちの家があげられ、人工の砂浜海岸を遊び場としている子どもは比較的少ない。

その他については、遊具の施設のある建物マリンピア、近くの店などがあげられている。

この問いについて、小学生、中学生に分けてみると、次の表のようになり、「その他」の欄にかなりの違いがあることがわかる。

・小学生の場合

〔1 位〕		〔2 位〕	
	%		%
3. 家の近くの公園	40.3	2. 友だちの家	26.9
1. 自分の家	25.2	1. 自分の家	20.2
2. 友だちの家	15.1	3. 家の近くの公園	16.0
4. 家の近くのあき地	5.9	5. 家の近くの道路	8.4
5. 家の近くの道路	3.4	7. 学校の校庭	8.4
7. 学校の校庭	0.8	4. 家の近くのあき地	5.0
6. 海 辺	0	6. 海 辺	5.0
8. そ の 他	7.6	8. そ の 他	9.3
NA	1.7	NA	0.8
計	100.0	計	100.0

・中学生の場合

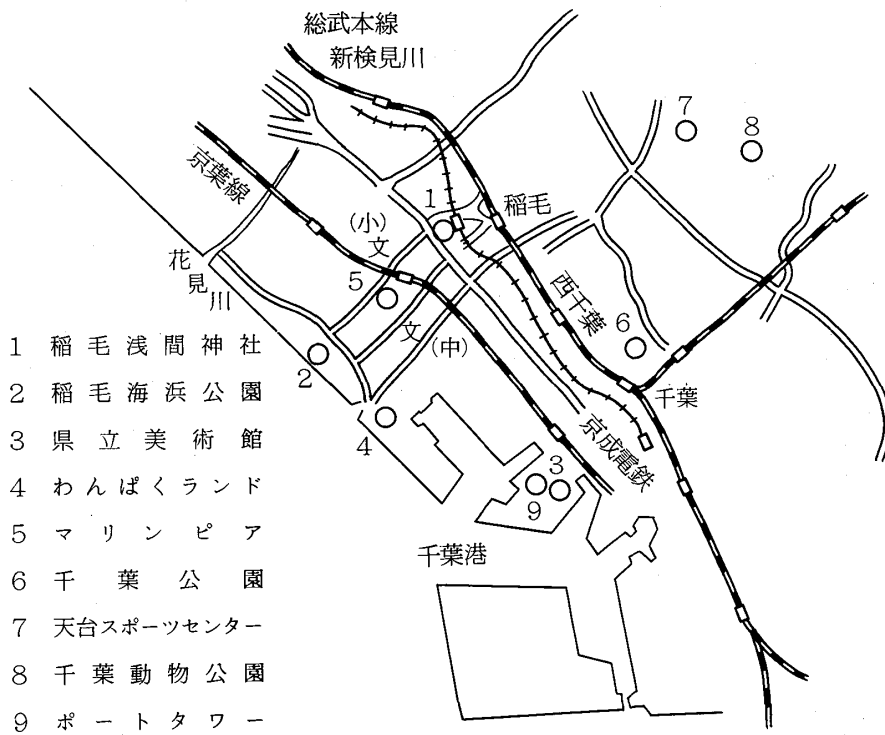
〔1 位〕		〔2 位〕	
	%		%
1. 自分の家	41.7	2. 友だちの家	33.3
2. 友だちの家	10.7	1. 自分の家	15.5
3. 家の近くの公園	4.8	3. 家の近くの公園	7.1
7. 学校の校庭	2.4	5. 家の近くの道路	6.0
4. 家の近くのあき地	1.2	6. 海 辺	6.0
5. 家の近くの道路	1.2	7. 学校の校庭	6.0
6. 海 辺	1.2	4. 家の近くのあき地	2.4
8. そ の 他	34.4	8. そ の 他	22.5
NA	2.4	NA	1.2
計	100.0	計	100.0

(問5)の(1) 次にあげた場所の中で、あなたが行ったことのあるところに○をつけてください。

この問いの答をまとめてみると次のようになった。ここに示した数字は調査対象者数に対するの比率をあげている。

場 所	小 学 生 (119人)	中 学 生 (84人)	計 (203人)
	%	%	%
5. マリンピア	98.3	100.0	99.0
2. 稲毛海浜公園	97.5	98.8	98.0
1. 稲毛浅間神社	95.0	98.8	96.6
4. 千葉公園	40.3	90.5	61.1
7. 天台スポーツセンター	39.5	86.9	59.1
4. わんぱくランド	42.0	61.9	50.2
3. 県立美術館	23.5	45.2	32.5
8. 千葉動物公園	36.1	23.8	31.0
9. ポートタワー	25.2	25.0	25.1

上位3者はすべて地域内にあって、それぞれ全く異質な場所であるが、子どもたちのほとんどの者が訪れていることがわかる。



- 1 稲毛浅間神社
- 2 稲毛海浜公園
- 3 県立美術館
- 4 わんぱくランド
- 5 マリンピア
- 6 千葉公園
- 7 天台スポーツセンター
- 8 千葉動物公園
- 9 ポートタワー

(問5) の(2) 上の(1)で○をつけた中で、おもしろかったところ、行ってよかったと思うところはどこですか。それぞれの番号で書いてください。いくつでもいいです。

場 所	小 学 生	中 学 生	合 計
9. マリントワー	70.0	47.6	60.8
4. わんぱくランド	66.0	51.9	58.8
2. 稲毛海浜公園	56.9	60.2	58.3
5. マリンピア	40.2	60.7	48.8
8. 千葉動物公園	48.8	15.0	38.1
6. 千葉公園	45.8	31.6	37.1
7. 天台スポーツセンター	44.7	30.1	35.8
1. 稲毛浅間神社	26.5	21.7	24.5
3. 県立美術館	28.6	18.4	22.7

その場所に行ったことがある、と(問5)の(1)で答えた数をもとにして、1～9までのそれぞれの場所に対しての子どもなりの評価をまとめたものが(問5)の(2)である。

先の(問5)の(1)で子どもたちのほとんどが訪れている場所であっても、子どもたちの評価はかなり違いがある。

もちろん出かける際の目的によっても異なった印象をもつであろうし、一概にこの結果をみて場所の良し悪しをきめることはできない。

注目したいことは、地域内にある稲毛海浜公園が比較的高い評価を与えられている点である。

〈中略〉

最後の問いを次にあげておこう。

(問7) あなたが家の近くで「こうあってほしい」と思うことがあれば、次の中からえらんで○をつけてください。いくつでもいいです。

身近な地域に対する子どもたちの要望、これは、現住地が子どもにとって心に残るふるさととなるのであれば、前向きに子どもたちの要望の具体化に親も行政も一般市民も努力すべきものであろう。

この結果をまとめると次のようになった。

6. 緑を多くしてほしい	52.7%
1. 遊ぶ場所がほしい	43.4
5. 町をきれいにしてほしい	40.9
3. お祭りや花火大会のような行事をやってほしい	27.6
4. デパートなどのお店がほしい	27.1
2. 図書館や博物館、美術館などがほしい	24.1
7. 電車、バスなどの交通の便をよくしてほしい	14.8
8. そ の 他	12.3
NA	4.9

総数

(503)

「6. 緑を多くしてほしい」が第1位にあげられた。

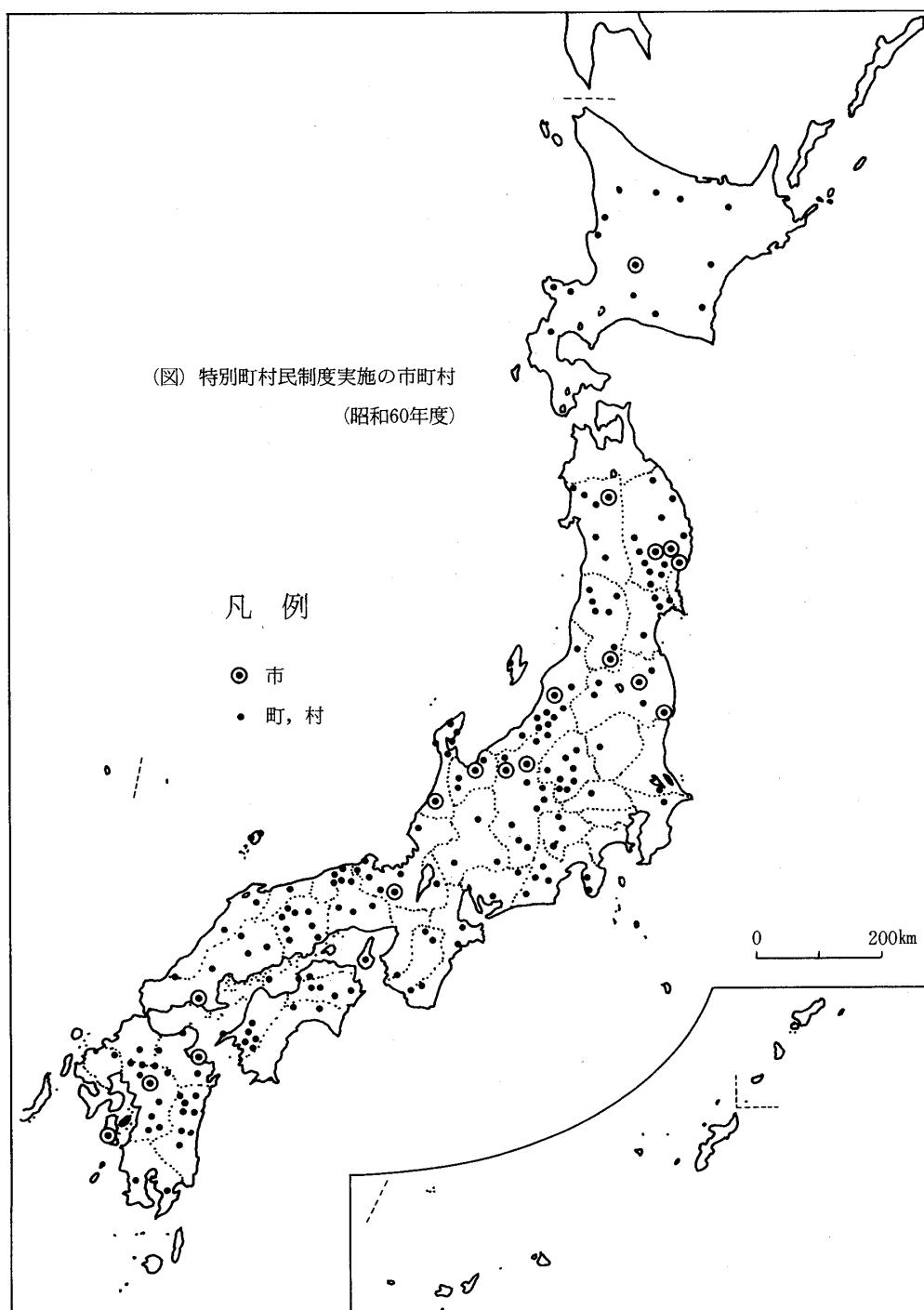
先の(問2)でも述べたように、緑はすくないとはいえないし、東京の下町地域などと比べるとはるかに豊かである。しかし、稲毛浅間神社付近の松林をみると、ニュータウン内の緑を濃くすることへの願いが生じてくるのであろうか。だが、樹林をつくるには埋立地造成時

の計画とも関係する土壌の厚さを果して現在どう改善するのかの問題がかかわってくる。

第2位の「町をきれいにしてほしい」は、自治会でもとりあげる問題になるだろうが、子どもたちにも自ら清掃作業を行う奉仕的な気持をもたせる指導が望まれよう。

こうした子どもの願いの中で、特に考えさせられるものが、「その他」に書かれていた。

「電車をなくして」、「京葉線はいらない」、「静かな夜を」、これは毎日の生活からの悲痛な叫びでもある。京葉線は、一方では交通の便を住民に与えるが、半面では騒音による環境の破壊をもたらしている。成人からも、子どもからも出てくる問題点である。緊急に根本的な対策を講ずることを願いたい。



(注) 自治省の資料から筆者作成

5 おわりに

この調査は、はじめに述べたように予察的に実施したものであり、今後、このような調査を広く行い、ふるさと意識をとらえていき、ふるさと運動との関連も図り、地域に根ざす教育や生活の見直しをねらいとするものである。

今回の調査でも、ふるさと意識の形成の時期と形成の要因に焦点を当てていたが、小・中学生のころの生活が、その環境とあわせて意義深いものがあることを確かめ得たと思う。

しかも、このことは、現在の子どもたちの生活をどのようなものにするかということと深くかかわりあいをもっている。

ふるさと村づくりの運動も、たんなる村おこしにとどめず、また、都市住民も安易な物的面の便宜さや有利さなどにのみとられることなく、身近な地域をしっかりと見直して、「まちおこし」を図り、それとともに農山漁村の村おこしに協力し、それを参考にする考え方が必要ではないだろうか。

子どもの心に残るふるさと、成人してからふり返ってみるふるさとは、現在、子どもの生活している身近な地域であることを認識することが大切である。

(注1) 特別町村民制度

昭和60年12月、自治省が発表した調査結果によると、特別町村民制度は全国で206件に及び、地域的にみると、報告のなかった青森、東京、神奈川、大阪、長崎、沖縄の6都府県を除くと、ほぼ全国的に行われていることがわかる。

これを各道府県別にそれぞれの実施市町村数をみると、北海道(15)、岩手(14)、新潟(14)、長野(10)、兵庫(9)、岡山(9)、熊本(9)などが多く、少い方では、1件だけの茨城、栃木、埼玉、千葉、滋賀、鳥取、佐賀があげられる。

特別町村民制度は、昭和49年度に福島県三島町の「ふるさと運動」から始まった。名称は制度となっているが、特に法的にきめたものではなく、過疎化したり、経済上の停滞になやむ町村が都市との流を図り、特産品の紹介や販売などにより、地域の活性化をねらいとしている。

(注2) 岩波国語辞典 岩波書店

(注3) 岩波古語辞典 岩波書店

(注4) 古語大辞典 小学館

(注5) 武原 弘：「源氏物語における望郷の秋」「文学における故郷」笠間書院

なお、今回の調査に用いた「ふるさと意識についてのアンケート」の内容を掲げておく。

ふるさと意識についてのアンケート

はじめに、次のことがらについてあてはまるものの数字に○をつけて下さい。

(性別) 1. 男 2. 女

(年齢) 1. 25才以下 2. 26～30才 3. 31～35才 4. 36～40才
5. 41～45才 6. 46～50才 7. 51～55才 8. 56～60才
9. 61～65才 10. 66才以上

(住所) 1. 稲毛地区 2. 真砂地区 3. 高洲地区 4. その他

()

それでは、あなたのふるさとについておたずねします。あてはまるものに○を1つだけつけ、その他には具体的に書いて下さい。

〔1〕 あなたには、ふるさと（郷里）といえるところがありますか。

1. あるといえる。 2. まああるといえる。
3. あるとはいいがたし、はっきりしない。 4. ふるさとといえるところはない。
5. その他 ()

〔2〕 上の〔1〕で4. 以外のところへ○をつけた方におききします。

あなたのふるさとといえるところはどこですか。

(都道府県)

〔3〕 あなたはふるさとをなつかしいと思いますか。

1. たいへんなつかしいと思う。 2. まあまあなつかしく思う。
3. あまりなつかしいとは思わない。 4. なつかしさは全くない。
5. その他 ()

〔4〕 あなたがふるさとを思い出すのは、どんなときですか。

1. うれしいことがあったとき。 2. ふるさとのことばを聞いた時。
3. 悲しいことがあったり、さびしくなっ 4. ふるさとの友人や知人とあって、話し
たとき。 ているとき。
5. ふるさとのことがテレビや新聞などで報道されたのを見たとき。
6. その他 ()

〔5〕 ふるさとと聞くと、あなたがいちばんなつかしく思いうかべるふるさとでの生活は何才ごろのことでしょう。

1. 6才まで（小学校入学前のころ） 2. 6～12才（小学生のころ）
3. 12～15才（中学生のころ） 4. 15～18才（高校生のころ）
5. その他（ 才のころ）

〔6〕 〔5〕で○をつけた年齢のころのふるさとの生活でなつかしく思いだされることは、どんなことですか。次のうちから3つまで選んで下さい。

1. 思い出のある自然(海・山・川・林・野原など)
2. よく遊んだ場所(公園・広場・あき地・社寺の境内など)
3. 水田・畑・牧場などの風景
4. 自分が育った家と近所の人々
5. 友だちと遊んだこと
6. 家族のだんらん
7. 祭りや縁日, 行事など
8. 小学校の級友や先生との生活
9. 豊かな人情を感じたこと
10. たべもの
11. 先祖のお墓へおまいりしたこと
12. ふるさとのならわし・習慣
13. その他()

〔7〕 あなたがふるさとを意識するようになったのは、何才ごろで、そのきっかけはどんなことでしたか。具体的に書いて下さい。

- (1) 何才ごろでしたか。() 才ごろ)
- (2) ふるさとを意識するきっかけになったことは何ですか。
()

★続いて現在のことについておたずねします。

〔8〕 あなたは、現住所に何年ぐらい住んでいますか。

(約 年)

〔9〕 あなたは、現在住んでいるところに愛着を感じていますか。

1. つよく感じている。
2. まあ感じている。
3. あまり感じてはいない。
4. すぐにでも引越したい。
5. その他()

〔10〕 上の〔9〕で現在住んでいるところに「愛着を感じている」(1・2に○をつけた方)は、その理由に近いものを3つまで選んで下さい。

1. よい自然環境があるから
2. 長年住み慣れているから。
3. 近所同士, 気心が知れているから。
4. すぐれた郷土文化や祭りなどがある
5. 風紀や治安がよいから
6. 交通が便利だから
7. 買い物などが便利だから
8. 住民の連帯感が強いから
9. 気楽に生活ができるから
10. よい文化施設があるから
11. 商売をするのによいところだから
12. 住民の教育水準が高いから
13. その他()

〔11〕 あなたは稲毛浅間神社のお祭りに行ったことがありますか。

1. はい
2. いいえ

〔12〕 あなたは、町内会・自治会・商店会・子ども会などのお祭りや盆踊り, バザーのような行事に行ったことがありますか。

1. はい
2. いいえ

〔13〕 上の〔12〕で「いいえ」と答えた方におききします。

行事に行ったことがないのはなぜですか。

1. そういう行事がないから
2. 行事はあっても行く気がしないから
3. 仕事や勤めの関係で行く時間的なゆとりがないから
4. その他 ()

〔14〕 現在住んでいるところがあなたのお子さんの心にふるさとして残るとしたら、あなたはどのように思いますか。

1. とてもよい地域なので、ぜひ心に残してほしい。
2. まあまあよい地域なので、ふるさとと思ってもよい。
3. ふるさととして意識するのは当然なのでやむをえない。
4. あまりよい地域とは思わないが、少しでも地域をよくするようにしたい。
5. ふるさととして、心に残してほしくない。
6. その他 ()

〔15〕 現在住んでいる地域を子どもたちにとってよい生活環境とするにはどんなことが必要でしょうか。3つまで選んで下さい。

1. 身近なよい自然環境を守る。
2. 遊びの広場や公園、グラウンドなどをとのえる。
3. 図書館・児童館などの文化施設をととのえる。
4. 地域の子どものスポーツをさかんにする。
5. 身近な地域の地理や歴史・伝統などを子どもによく理解させる。
6. 季節の行事、昔から伝わる行事などをさかんにする。
7. 地域の子ども会の活動をさかんにする。
8. 地域の風紀や治安をよくする。
9. 住民同士の間人間関係をよくする。
10. 騒音などの公害をなくす。
11. その他 ()

御協力まことにありがとうございました。

あなたの住んでいる所などについてのアンケート調査

はじめに、次のことがらについてあてはまるものに○をつけてください。

(性別) 1. 男 2. 女

(住所) 1. 稲毛地区 2. 真砂地区 3. 高洲地区 4. その他 ()

あなたの住んでいる所についておききします。次の各問に答えてください。

〔1〕 あなたは今住んでいる所が好きですか。

1. とても好き 2. どちらかというとき好き 3. 好きでもきらいでもない
4. どちらかというとききらい 5. 大きらい

〔2〕 上の〔1〕で答えたことの原因を選んで、3つまで○をつけてください。

1. 静か、緑が多いなどかんきょうがよい 7. まちがきれいで気持ちよい
2. よい友だちがいる 8. 遊び場が多い
3. 交通が便利 9. 近所の人がいい人たち
4. 今の学校が好き 10. 買い物が便利
5. 住みなれている 11. 家は親が苦勞して買った
6. ちかんやへんな人がいる 12. 夜、人通りが少なくてこわい
13. 夜音がうるさい
14. その他 ()

〔3〕 (1) あなたはひっこしをしたことがありますか。

1. ある→(2)へ 2. ない→(3)へ

(2) 上の(1)で「ある」と答えた方におききします。

あなたは前に住んでいた所にもどりたいと思うことがありますか。

1. いつももどりたいと思っている。 2. 時々もどりたいと思う。
3. もどりたいと思うことはない。 4. その他 ()

(3) 上の(1)で「ない」と答えた方におききします。

あなたは、今住んでいる所から他の所へひっこしたいと思うことがありますか。

1. いつもひっこしたいと思っている。 2. 時々ひっこしたいと思う。
3. ひっこしたいと思うことはない。 4. その他 ()

〔4〕 あなたは、いつもどこで遊んでいますか。次の中から、よく遊ぶ場所の1位と2位を選んで下の()に番号で書いてください。

1. 自分の家 2. 友達の家
3. 家の近くの公園 4. 家の近くのあき地
5. 家の近くの道路 6. 海辺
7. 学校の校庭 8. その他 ()

・1位 () ・2位 ()

〔5〕 (1) 次にあげた場所の中で、あなたが行ったことがあるところに○をつけてください。

- | | |
|-----------------|------------|
| 1. 稲毛浅間(せんげん)神社 | 2. 稲毛海浜公園 |
| 3. 県立美術館 | 4. わくぱくランド |
| 5. マリンピア | 6. 千葉公園 |
| 7. 天台スポーツセンター | 8. 千葉動物公園 |
| 9. ポートタワー | |

(2) 上の1で○をつけた中で、おもしろかったところ、行ってよかったと思うところはどこですか。それぞれの番号で書いてください。いくつでもいいです。

()

(3) 上のあげた場所のほか、あなたの家からあまり遠くないところで、「行ってよかったなあ。」と思うところがあったら書いてください。いくつでもいいです。

()

[6] (1) あなたは、町内会・子ども会などのお祭りや花火大会にいったことがありますか。

- | | |
|-------|-------------|
| 1. はい | 2. いいえ→(2)へ |
|-------|-------------|

(2) (1)で「いいえ」と答えた方におききます。

町内会・自治会・子ども会などのお祭りや花火大会に行ったことがないのはなぜですか。

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. そういう行事がないから | 2. そういう行事があるが行く気がしないから |
| 3. 親がつれていってくれないから | 4. じゅくの勉強やおけいごとでいそがしいから |
| 5. おこづかいがたりないから | 6. その他 () |

[7] あなたが家の近くで「こうあってほしい」と思うことがあれば、次の中からえらんで○をつけてください。いくつでもいいです。

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 遊ぶ場所がほしい | 2. 図書館や博物館, 美術館などがほしい |
| 3. お祭りや花火大会のような行事をやってほしい | 4. デパートなどのお店がほしい |
| 5. 町をきれいにしてほしい | 6. 緑を多くしてほしい |
| 7. 電車, バスなどの交通の便をよくしてほしい | 8. その他 () |

ご協力ありがとうございました。

千葉大学教育学部社会科教育
川合研究室